
新世紀アーマードコア

AREK

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀アーマードコア

【Nコード】

N0942M

【作者名】

AREK

【あらすじ】

すべての人の魂がLCLになってしまった世界。

孤独になった碇シンジの前に現れる《ロンギヌスの槍》、それを使い、別な世界に移動したが、そこは《管理者》と呼ばれるものが支配する地下世界だった

プロローグ（前書き）

はじめまして、AREKと申します。初投稿で、至らないところもありますが、頑張りますので、暖かい目で見守ってください。

プロローグ

波の音が聞こえる。

海がある。しかしそれは、紅い海だった。紅い地平線ここはかつて第三新東京市と呼ばれていた。

ここには何十億の人々が存在しながら、たった一人しかない。

その一人はまだ中学生の少年だった。

少年の顔は悲しみに満ちていた。

少年は座り俯いていた。

「・・・どうしてこんな事になってしまったのだろう。」

少年が海に向かって呟いた。

ここには大勢の人々の存在が在りながら、《人の形を保っていない》のであった。

少年以外の生命は在るが、話すことも、ましてや触れることすらできない。

「どうして・・・」

少年は孤独だった。

答えの返ってこない問い。「・・・みんな・・・」

少年は願った。

楽しかった事。

嬉しかった事。

悲しかった事。

苦しかった事。

それら全てが幸せだった。自分の居場所がそこにあった。どんな形であれ、そこに自分が居ていいんだと思えた。

「逢いたい・・・」

少年は願った。

「みんなに・・・」

必死に、

「もう一度・・・」

願った。

「逢いたい!!」

バツ!

「ロンギヌスの槍!？」

少年の前に一本の槍が現れた。

「もしかして、これを使えば・・・」

少年は槍に触れようとしたが、すぐに手を引っ込めた。

怖い。

何が?

死ぬ事が?

このままずっと孤独でも?嫌だ!

「死んだって、構うものか!このままだって、一人のままなんだ、それなら・・・」

少年は槍を掴み、自分に突き刺した。

自分が自分で無くなるような錯覚。しかし不思議と、嫌な感じはしなかった。

少年、碇シンジはその錯覚に包まれながら、ゆっくりと目を閉じた。
少年を中心に世界が光に包まれた。

鋼鉄の巨人（前書き）

いよいよACが現れます。

鋼鉄の巨人

「・・・ん、ここは？」

シンジが目覚まし、周りを見渡した。どうやら格納庫のようだが、まったく見覚えがなかった。

「こ、これは！？」

シンジの前に2体の巨人が立っていた。

「『EVA』、・・・いや違う。」

目の前にある機体は『EVA』と同じ人型であったが、『EVA』に比べると大分小型だし、ごつごつとしたフォルムをしていた。

「おい、お前！」

2体のロボットを眺めていたら、後ろから男に怒鳴られた。

「な、何ですか。」

シンジがビビりながら、そう答えると、さらに不機嫌な顔になった。
「何ですか？ じゃない！ これから試験が始まるというのに、こんなところで何をしている！ さっさとACに乗れ！」

「え、え？」

シンジは男に引っ張られ、01と肩に書かれたロボットの元に連れていかれた。

ACと呼ばれたロボットに乗り込むと、不思議な感覚に捉われた。
初めて見た筈なのに周りの機器の扱い方が分かり、操縦桿やシートはずっと使っていたかのように馴染んだ。

『そろそろ目標地点に到達する。もう一度君達に課せられた依頼を確認する。』通信機からさっきの男の声が聞こえる。

『目標は市街地を制圧している部隊の撃破。』

『敵勢力は戦闘メカだ。』後部のハッチが開いた。

『この依頼を達成した時、君達はレイブンに登録される。』

『このチャンスに二度目はない。必ず成功させる事だ。』

『これより作戦領域に投下。ミッションを開始する。』

2機の巨人が輸送機から飛び出した。

鋼鉄の巨人（後書き）

もう少し考えて、ゲームをやっていないなくても分かりやすくしたいです。

聞い

2機のACは地面が近くなるとブリストを噴かし、着地した。レーダーを見ると、カメラでは見えないが、前方に2つの反応があった。

ブリストを噴かしながら前進すると、2つの機体が見えた。前方の敵がこっちに気付きロケットを放ってきた。

「つく！」

それを躲し更に距離を詰め、ブレードを振る。

ザン！

斬られた敵は、上下に分裂して爆発した。

すぐさまもう1体の敵に向き直り、ライフル弾をたたき込んだ。数発食らうと煙を上げて爆発した。

「よし！これならいける！」

次の敵に向かおうとすると、

『これに生き残れば！！』通信機から青年の声が聞こえてきた。よく分からないけど多分、一緒に戦っている、味方の人だろう。あちらは順調みたいだ。

「えっと、残りは。」

レーダーを確認し、敵の位置を確認する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0942m/>

新世紀アーマードコア

2011年10月7日10時49分発行